

「アウトソーシング基本方針(案)」パブリック・コメント反映一覧表

資料 2

ページ	意見	反 映 前	反 映 後
2ページ	2	<p><b>2. アウトソーシング推進の背景</b></p> <p>基礎自治体が市民サービスを提供するに当たっては、従来の手法では、その「質及び量」の確保に限界が来ています。つまり、市民サービスの拡大は、同時に財政規模の拡大につながり、<u>財政の限界からサービスの「質及び量」の確保が制限を受けていることとなります。</u></p>	<p><b>2. アウトソーシング推進の背景</b></p> <p>基礎自治体が市民サービスを提供するに当たっては、従来の手法では、その「質及び量」の確保に限界が来ています。市民サービスの拡大は、<u>時として財政規模の拡大につながり、財政の限界からサービスの「質及び量」の確保が制限を受けることとなります。</u></p>
	6	<p>このような現状に至った背景は、国・地方の経営資源の制約、市民ニーズの多様化・高度化、公共サービスへの民間からの期待の増加、があげられます。</p>	<p>このような現状に至った背景は、国・地方の経営資源の制約、市民ニーズの多様化・高度化、公共サービスへの<u>事業者等（市内で事業活動又は公益的な活動を行う団体）</u>からの期待の増加、があげられます。</p>
3ページ	6	<p>背景3 公共サービスへの民間からの期待の増加</p>	<p>背景3 公共サービスへの<u>事業者等</u>からの期待の増加</p>
5ページ	14	<p>税の使途に関する説明責任 市民からお預かりした税は、効率・効果的にサービスに転換していくことが必要です。このプロセスや結果を説明することを「アカウンタビリティ」と言いますが、アウトソーシングにより、行政の役割と執行責任が明確となり、「アカウンタビリティ」をより意識することで行政の透明性が図られます。</p>	<p>税の使途に関する説明責任 市民からお預かりした税は、効率・効果的にサービスに転換していくことが必要です。このプロセスや結果を説明することを「アカウンタビリティ」と言います。<u>アウトソーシング推進の検討過程においても「アカウンタビリティ」を意識しながら対象事業における行政の役割と執行責任を明確化することにより、透明性が図られます。</u></p>
13ページ	30	<p>ホ サービスの質やコストの妥当性、安定供給等の面からみた外部活用効果の検証、委託費用の積算見直しなどモニタリング・評価</p>	<p>ホ <u>サービスの質とその安定供給状況等に関するモニタリングの実施</u> <u>コストの妥当性、外部活用効果等の検証・評価</u> <u>(以下順次繰り下げ)</u></p>
14ページ	1 16 22 32	<p>実施計画は、各部単位の検討をベースに、平成21年度末までに行政改革推進本部でまとめることとします。 なお、平成22年度予算に反映させるものについては、<u>同時並行的に検討を進めるものとします。</u></p>	<p>実施計画は、各部単位の検討をベースに<u>実施計画案を作成し、パブリック・コメント及び市民説明会を経て、平成22年10月末までに行政改革推進本部でまとめることとします。</u> <u>(削る)</u></p>